

スーパースマイル新聞

2021年（令和3年）夏号（vol.106） くしま矯正歯科通信

〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町 1-21-22 徳山ビル4F

TEL 06-6628-8148 FAX 06-6627-0878 HP <https://www.kushima-ortho.com>



当院からのお知らせ

コロナ禍の中、矯正歯科治療を始めようとする患者さまが全国的に広まっていると聞きます。当院でも例年と比べると、昨年のコロナ禍からは初診相談件数が増加しております。大阪府内はもちろん、和歌山県、奈良県、滋賀県などの遠方からの患者さまもご来院されております。中でも、他院で矯正歯科治療中にも関わらず、セカンドオピニオンを求めてご来院される患者さまも増加しております。その場合、初診時の状態を把握したいですので、資料などご持参頂くとお話しやすいです。

先日、大学生の患者さまから矯正がプチブームになっていると伺いました。マスクをしているので、矯正歯科治療を始めたいという方が増えているようです。また、最近では、10代、20代の患者さまからは、『ロゴボが気になる』と問診票に書かれることを目にする機会が増えました。『ロゴボ』、、、とググって初めて知ったキーワードでした。「上下の前歯が前方に出ていることで口元が出た状態」つまり専門用語では『上下顎前突』と我々は言います。



当院に勤めていた歯科衛生士の大林つつみさんが自宅がある姫路から遊びに来てくれました。現在は男の子2児のママです。産後は一般歯科で働いておりましたが、もう一度、矯正歯科で働きたいと強い気

持ちを語ってくれました。姫路市内の矯正歯科専門医で近日中に働かれるようです。また勉強会などでお会いできることでしょう。

スタッフ便り



なかなか外に遊びに行けませんが、皆さんはお家時間をいかが過ごされていますか??

最近、今流行りの東京卍リベンジャーズを読みました！主人公の真っ直ぐな心とヤンキー達の熱い友情に、読んでいる側の心も熱くなってくる素晴らしい漫画です！

まだ読んでいない方はぜひ読んでみてください。^o^
7月には実写化映画も公開されるみたいです。楽しみ

ですね！

また、私ごとですが大学で研究している口唇口蓋裂の治療法で新たな発見があり、先日学会にて発表させていただきました。今後もより良い医療をみなさまに提供できるように尽力していこうと思います。 担当:吉田

矯正と関わって 50 年

名誉院長 久島文和

卒業後すぐ母校の矯正学教室に入局、12 年間在籍し開業して 39 年になります。従って 50 年以上歯科矯正治療に関わってきたわけです。

そこで今回から数回にわたり矯正歯科専門医として歯科矯正を取り巻く環境の変化を書いてみたいと思います。

矯正科に進もうとした動機ですが、5年生のころ、日本歯科医学会総会に出て某大学の矯正の教授の特別講演を聞く機会がありました。その時講演された先生が“様々な症例の術前術後の写真”を提示されとても興味を持ちました。

現在と違い6年生でかなりの数の臨床実習をしたので“歯を抜くこと”“歯を入れること”は数多く経験しましたが“歯を動かす”ことは経験していませんでした。

同級生の大半が補綴(いわゆる入れ歯の診療)を選び、矯正に進んだ私はどちらかという変わり者に見られたと思います。



卒業して翌年に開業した者もいて待合室に患者があふれる状態でした。

当時は口の中が写真のような子供がほとんどで“虫歯の洪水時代”と言われ、どこの歯科医院も患者があふれ、矯正治療は敬遠され、大学病院に紹介されました。その結果矯正科は開始まで4年から7年待ちという状態でした。大学病院に多い口唇口蓋裂の患者さんは2歳で相談に来て9歳から開始ということ

になります。

当時矯正科の患者は大半が小中学生でした。治す装置は、床装置やFKOという取り外しのできる簡単な装置が大半でした。固定装置も使いましたがすべての歯にバンドを巻き、その上にブラケットをろう着するものでしたので見た目が悪くだけでなく、ブラッシングがしにくく齲蝕になる患者も多くみられました。

入局の翌年に世界で初めて日本の先生が、+今では普通になったボンディングというブラケットを直接歯につける方法を開発され世界中から脚光をあびました。

成人患者とマルチブラケット法が多くなった現在を考えると隔世の感がありますね(続く)。